

遠隔医療を広めよう

11カ国の担当者招き 香川大で研究集会



遠隔医療技術を活用するための課題を話し合った研究集会

香川大が先進的に取り組む遠隔医療を海外にも広めようと、研究集会「国際遠隔医療の新展開へ向けた産学官民の連携」アジアの国々と共に何をすればよいか」が18日、高松市幸町の同大で開かれた。遠隔医療技術を学

ぶため来日中のアジア11カ国の政府担当者ら15人を迎え、大学や企業、県の関係者ら約30人が話し合った。

インターネットなどで患者データを共有したり、テレビ電話を使うと、離れた場所にいる医師の診察が受けら

れる。同大は県や県医師会と「かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)」を運用しており、徳田雅明・医学部教授は「医療過疎や島が多いなどの事情を抱えるアジア各国にも技術を役立てもらいたい」と強調した。

また、日本遠隔医療学会の長谷川高志理事は「遠隔医療を定着させるには、その国が技術を運用できなければならぬ。共同研究や教育の面で協力するべき」と提言。各国の政府担当者も取り組む意欲をみせていた。

【馬淵晶子】